



白内障と緑内障について

▷問い合わせ 稲城市保健センター
☎378-3421

白内障は60歳頃から出ると言われ、かなり進行すると手術の合併症や危険性が増えますので、不自由さがある程度感じたら白内障手術を受ける方が安全です。手術が怖いと言って水晶体が極めて固くなってから手術を受けると、患者本人も、手術をする眼科医も大変な事があります。水晶体は毛様小帯ようしょうたいという細い糸によりハンモックハンモックみたいな全周性に支えられています。もともとこの糸が弱いPE症候群の人や進行した白内障の場合、手術で断裂する事もあります。切れないように最善を尽くしても切れる場合がありますので、より安全で手遅れにならない段階での手術をお勧めします。

逆に早めの手術が危険な病気があります。翼状片よくじょうぺんといって角膜上に内側から翼を拡げる形で増殖する白い

できものです。早期に手術をすると再発しやすく注意が必要です。紫外線やほこりが増殖しますので注意しましょう。今年はスギ花粉が大変多く飛散しておりますが、花粉症の目薬のステロイド点眼薬で眼圧が高くなることもありますので、眼圧が高くなっていないか眼科で検査をお勧めします。

緑内障は日本人の中途失明原因で糖尿病網膜症を抜いて1位になりました。60歳以上で10人に1人、40歳以上で20人に1人の極めて高い頻度です。初期の段階で自覚症状がある人はまずいません。視野検査で暗点出現前に視神経変化が先行しますので、眼科で定期的な検査が必要です。視野検査にも厳密な緑内障診断基準があり、緑内障の人は自分が信頼できる眼科医にしっかりと治療してもらいましょう。最近は良く効く点眼薬が次々に出てきており緑内障手術にまでなる人は少ないです。緑内障手術は5年後に10%の人が感染を起こすと言われており、なるべく点眼治療だけでいき

稲城市医師会 佐藤 功